



## 2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年8月9日

上場会社名 東邦亜鉛株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 5707 URL <http://www.toho-zinc.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 丸崎 公康  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 田邊 正樹 TEL 03-6212-1716  
 四半期報告書提出予定日 2019年8月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 ( 機関投資家、証券アナリスト向け )

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第1四半期の連結業績 (2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	23,425	△23.7	△3,985	—	△3,592	—	△2,960	—
2019年3月期第1四半期	30,700	6.7	1,598	82.5	1,574	65.0	1,223	65.0

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 △3,101百万円 ( —%) 2019年3月期第1四半期 △416百万円 ( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	△218.01	—
2019年3月期第1四半期	90.14	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	130,486	51,449	39.4
2019年3月期	130,231	55,501	42.6

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 51,449百万円 2019年3月期 55,501百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	70.00	70.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	0.00	—	100.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	49,200	△15.9	△4,500	—	△4,250	—	△4,100	—	△301.95
通期	99,000	△15.8	△800	—	△700	—	△1,500	—	△110.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 ー 社 （社名） ー、除外 ー 社 （社名） ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期1Q	13,585,521株	2019年3月期	13,585,521株
② 期末自己株式数	2020年3月期1Q	7,055株	2019年3月期	7,055株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期1Q	13,578,466株	2019年3月期1Q	13,578,510株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 5「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

当社は、2019年8月13日（火）に機関投資家、証券アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で使用する資料につきましては、決算発表と同時にTDnet及び当社ホームページで開示しております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(四半期連結貸借対照表に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11
3. その他	13
連結売上高明細表	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間の連結業績は以下の通りです。売上高は減収、営業利益・経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益ともに減益となりました。

(単位：百万円)

	2018年6月期	2019年6月期	増減 (増減率%)
売上高	30,700	23,425	△7,275 (△24)
営業利益又は損失 (△)	1,598	△3,985	△5,584 (－)
経常利益又は損失 (△)	1,574	△3,592	△5,167 (－)
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は損失 (△)	1,223	△2,960	△4,184 (－)

## 《経営環境》

当第1四半期連結累計期間の当社グループを取り巻く事業環境は以下の通りです。

金属相場、特に当社の主力製品である亜鉛につきましては、米中貿易摩擦の長期化やLME（ロンドン金属取引所）在庫の増加などから5月以降急速に下落し、期を通じては下落基調となりました。また、前年同期が相場高だったこともあり、期中平均では前年同期比で下落となりました。鉛も亜鉛と同様の理由から5月以降急速に下落したものの、その後、鉛固有の問題（海外主要鉛製錬所の操業問題）などから持ち直しました。しかしながら、前年同期が相場高だったこともあり、期中平均では前年同期比で下落となりました。銀については、工業用需要も多く、亜鉛・鉛同様米中貿易摩擦の影響はあったものの、期を通じて15ドル前後で推移しました。しかしながら、期中平均では前年同期比で下落となりました。

一方為替相場は、円/米ドル相場は、6月以降は米国の利下げ観測の影響などにより円高（円高は製錬事業の業績にマイナスの影響）に向かいましたが、期中平均ではほぼ前年同期並みでした。豪州に鉱山会社（CBH Resources Ltd.（以下、「CBH社」という。））を有する当社グループに影響を与える米ドル/豪ドル相場につきましては、期（2019年1月から3月）を通じて概ね豪ドル安（豪ドル安は資源事業の業績にプラスの影響）に推移し、期中平均でも前年同期比豪ドル安となりました。

買鉱条件につきましては、亜鉛は前期に比して大幅に改善しましたが、鉛については引き続き、製錬事業には厳しいものとなっております。電力費等の加工コスト高も相まって、製錬事業には厳しい事業環境となっております。

## 《売上高》

当社グループの当第1四半期連結累計期間の業績は、金属相場の下落に加え、亜鉛・銀の減販の影響も大きく、製錬事業で大幅な減収となったことに加え、資源事業においても、エンデバー鉱山の減産などもあり、連結売上高は前年同期比大幅な減収となりました。

## 《利益》

損益面では、前年同期は金属相場が高止まりしていたものの、当期は金属相場が下落局面となり、前年同期比で多額の在庫評価損を計上したため、製錬事業で42億円の大減益となりました。資源事業でも、主に市況の影響から7億円の減益となりました。以上の結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益ともに前年同期比で大幅減益かつ赤字となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります（以下、各セグメントの売上高には、セグメント間売上高を含みません）。

なお、前連結会計年度より、報告セグメントの区分を変更しており、前第1四半期連結累計期間との比較・分析は変更後の区分に基づいて記載しております。

## ① 製錬事業部門

(単位：百万円)

	2018年6月期	2019年6月期	増減 (増減率%)	
売上高	22,236	17,491	△4,744	(△21)
営業利益又は損失 (△)	408	△3,788	△4,196	(-)

## 《亜鉛》

LME相場は、期初3,018ドル/トンでスタートしたのち、5月以降は米中貿易摩擦の長期化やLME在庫の増加などから急速に値を下げ、6月末には2,500ドル割れに迫る水準まで下落しました。この結果、期中平均では2,763ドルとなり、前年同期(3,114ドル)を下回りました。国内価格も期中平均355千円/トンと前年同期(389千円)を34千円下回り、これに加えて減販の影響もあり、売上高は前年同期比19%の減収となりました。

## 《鉛》

LME相場は、期初2,022ドル/トンでスタートしたのち、亜鉛同様値を下げました。その後鉛固有の事由から6月に値を戻したものの、期中平均では1,886ドルと前年同期(2,387ドル)を下回りました。国内価格も期中平均272千円/トンと前年同期(323千円)を50千円下回りました。増販とはなかったものの相場の影響が大きく、売上高は前年同期比で8%の減収となりました。

## 《銀》

ロンドン銀相場は、期初15.1ドル/トロイオンスでスタートしたのち、工業用需要の多い銀の相場は亜鉛・鉛同様の理由から、5月以降は14ドル台に低迷しました。その後はドル安からやや値を戻したものの、期中平均は14.9ドルと前年同期(16.5ドル)を下回りました。国内価格も期中平均54,020円/キログラムと前年同期(59,440円)を5,420円下回りました。加えて、原料調達の関係から前年同期比減産・減販となった結果、売上高は前年同期比34%の減収となりました。

以上のほか、硫酸などその他の製品を合わせた当事業部門の業績は、金属相場下落に加えて減販もあり、前年同期比で減収となりました。営業利益は急激な金属相場下落から多額の在庫評価損を計上したことや、非鉄スラグ製品の処理費用の計上もあり、前年同期比42億円の減益となり、38億円の営業損失へと転じました。

なお、金属相場(月平均)及び為替相場(月平均)の推移は下表のとおりであります。

区分	亜鉛		鉛		銀		為替レート	
	LME相場	国内価格	LME相場	国内価格	ロンドン相場	国内価格	円/米ドル	米ドル/豪ドル
	\$/t	¥/t	\$/t	¥/t	\$/toz	¥/kg	¥/\$	US\$/A\$
2017年6月	2,572	332,600	2,131	292,200	16.9	61,910	112.00	0.7550
9月	3,120	394,300	2,377	320,700	17.4	63,610	112.73	0.7968
12月	3,192	408,900	2,509	341,600	16.2	59,970	113.00	0.7640
2018年3月	3,280	394,400	2,397	316,000	16.5	57,650	106.24	0.7768
6月	3,092	389,000	2,441	333,000	16.5	59,870	110.03	0.7494
9月	2,433	320,500	2,028	292,000	14.3	52,700	111.91	0.7197
12月	2,626	345,100	1,965	286,000	14.7	54,320	112.51	0.7187
2019年3月	2,851	365,800	2,055	294,900	15.3	56,120	111.24	0.7076
6月	2,602	332,500	1,892	267,800	15.0	53,520	108.12	0.6945

## ② 資源事業部門

(単位：百万円)

	2018年6月期	2019年6月期	増減 (増減率%)
売上高	5,627	3,574	△2,053 (△36)
営業利益又は損失 (△)	145	△577	△723 (－)

金属相場が大きく下落（1月—3月期比較）したことや、エンデバー鉱山の減産などもあり、売上高は前年同期比大幅な減収となりました。損益面でも金属相場悪化の影響が大きく、前年同期比7億円の営業減益となりました。

## ③ 電子部材事業部門

(単位：百万円)

	2018年6月期	2019年6月期	増減 (増減率%)
売上高	1,618	1,303	△315 (△19)
営業利益	149	122	△27 (△18)

## 《電子部品》

中国生産車（中国国内販売向け）の生産減による車載電装向けの販売減や、貿易摩擦問題を受けた設備投資の縮小による産業機器向けの販売減により、売上高は前年同期比18%の減収となりました。

## 《電解鉄》

世界のトップシェアを誇る電解鉄は、2018年10月及び2019年3月の航空機墜落事故の影響を受け、航空機用特殊鋼向けの販売が落ち込みました。また、米中貿易摩擦等の影響から電子部材向け特殊鋼用途の売上も落ち込み、売上高は前年同期比17%の減収となりました。

## 《プレーティング》

プレーティング製品（各種電子機器の接点・接続端子に使用される金、銀、錫、ニッケル等のメッキ材）は、電動工具電池用銀メッキの販売は好調だったものの、特に金メッキが用途全般で販売を落としたため、売上高は前年同期比22%の減収となりました。

## 《機器部品》

粉末冶金部門は自動車関連製品は順調だったものの一般産業向けが低調で、前年同期比で減収となりました。タイヤ用バランスウェイト部門は自動車ライン向けの減少が大きく、前年同期比減収となりました。結果として当事業部門の売上高は前年同期比25%の減収となりました。

以上の結果、当事業部門の業績は、前年同期比で減収減益となりました。

## ④ 環境・リサイクル事業部門

(単位：百万円)

	2018年6月期	2019年6月期	増減 (増減率%)
売上高	1,349	1,331	△18 (△1)
営業利益	525	398	△126 (△24)

主力製品の酸化亜鉛は、増販となったものの、亜鉛の国内建値が前年同期比で下落したこともあり若干の減収となりました。使用済みニカド電池の処理や硫酸リサイクルなど他のリサイクル事業についても前年同期比減収となり、当事業部門の業績は、前年同期比で減収減益となりました。

## ⑤ 土木・建築・プラントエンジニアリング事業部門

(単位：百万円)

	2018年6月期	2019年6月期	増減 (増減率%)
売上高	422	196	△226 (△54)
営業利益	30	△119	△150 (－)

プラントエンジニアリング事業において、前期に大型案件が収益計上されましたが、当期はそのような案件が無かったこともあり、前年同期比54%の減収となりました。また、プラントエンジニアリング事業で不採算の案件が生じたことなどから、前年同期比1億50百万円の減益となり、1億19百万円の営業損失に転じました。

## ⑥ その他事業部門

(単位：百万円)

	2018年6月期	2019年6月期	増減 (増減率%)
売上高	2,158	1,884	△273 (△13)
営業利益	113	125	11 (11)

《防音建材（商品名：ソフトカーム）事業》

医療向けX線遮蔽用鉛板やプラントの設備防音用鉛シートの前年同期比での需要減に加え、制振遮音材が需要家の仕様変更により販売が落ち込み、売上高は前年同期比3%の減収となりました。

《運輸事業》

運輸部門は、運送荷物やリサイクル原料等の扱い量の減少などにより、売上高は前年同期比14%の減収となりました。

以上のほか、環境分析部門を合わせた当事業部門の業績は、前年同期比で減収となりましたが、損益面においては、原料価格（鉛）の下落から防音建材事業が増益となったことなどもあり、前年同期比増益となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ2億54百万円増加し、1,304億86百万円となりました。

負債については、コマーシャル・ペーパー増発もあり、前連結会計年度末に比べ43億6百万円増加し、790億36百万円となりました。

純資産は、配当の支払いや、赤字計上による利益剰余金の減少などもあり、前連結会計年度末に比べ40億51百万円減少し、514億49百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は39.4%となり、前連結会計年度末に比して、3.2ポイント下落しております。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2019年5月9日公表の予想から修正しております。詳細につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,248	11,158
受取手形及び売掛金	14,027	12,355
電子記録債権	2,291	2,286
たな卸資産	42,367	41,689
その他	4,050	4,314
貸倒引当金	△0	△1
流動資産合計	72,984	71,802
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,379	7,357
機械装置及び運搬具（純額）	13,114	13,125
土地	17,091	17,168
その他（純額）	1,360	942
有形固定資産合計	38,945	38,593
無形固定資産		
鉱業権	11,801	12,180
その他	53	50
無形固定資産合計	11,854	12,230
投資その他の資産		
投資有価証券	2,995	2,746
退職給付に係る資産	203	204
その他	3,898	5,559
貸倒引当金	△650	△650
投資その他の資産合計	6,447	7,859
固定資産合計	57,247	58,684
資産合計	130,231	130,486

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,067	5,286
短期借入金	11,828	11,477
1年内返済予定の長期借入金	11,137	13,796
コマーシャル・ペーパー	11,000	16,000
未払法人税等	111	64
工事損失引当金	442	427
引当金	356	357
その他	5,900	6,864
流動負債合計	47,844	54,275
固定負債		
長期借入金	18,866	16,744
引当金	506	517
退職給付に係る負債	148	146
資産除去債務	2,436	2,450
再評価に係る繰延税金負債	4,345	4,345
その他	581	557
固定負債合計	26,885	24,761
負債合計	74,730	79,036
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	14,630	14,630
資本剰余金	9,876	9,876
利益剰余金	20,963	17,052
自己株式	△30	△30
株主資本合計	45,440	41,530
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	657	515
繰延ヘッジ損益	110	△95
土地再評価差額金	8,997	8,997
為替換算調整勘定	180	392
退職給付に係る調整累計額	113	109
その他の包括利益累計額合計	10,060	9,919
純資産合計	55,501	51,449
負債純資産合計	130,231	130,486

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	30,700	23,425
売上原価	26,767	25,266
売上総利益又は売上総損失(△)	3,933	△1,841
販売費及び一般管理費	2,334	2,144
営業利益又は営業損失(△)	1,598	△3,985
営業外収益		
受取利息	3	1
受取配当金	54	50
受取保険金	3	424
その他	214	83
営業外収益合計	275	559
営業外費用		
支払利息	99	93
為替差損	173	37
その他	26	36
営業外費用合計	299	166
経常利益又は経常損失(△)	1,574	△3,592
特別利益		
固定資産売却益	1	2
投資有価証券売却益	—	11
特別利益合計	1	13
特別損失		
減損損失	—	325
固定資産除却損	75	36
特別損失合計	75	362
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,500	△3,941
法人税、住民税及び事業税	48	△21
法人税等調整額	228	△959
法人税等合計	276	△981
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,223	△2,960
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	1,223	△2,960

## (四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,223	△2,960
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△37	△142
繰延ヘッジ損益	21	△206
為替換算調整勘定	△1,624	211
退職給付に係る調整額	△0	△4
その他の包括利益合計	△1,640	△141
四半期包括利益	△416	△3,101
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△416	△3,101
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表に関する注記)

(非鉄スラグ製品の処理に係る偶発債務)

当社安中製錬所が過去に出荷した非鉄スラグ製品の一部において、土壤汚染対策法の土壤環境基準を超過した製品があること、ならびに、当社の管理不足により不適切な使用・混入がなされた可能性のあることが、調査の結果判明いたしました。今後も、当該製品を回収、撤去するための費用負担が発生する可能性があります。現時点では四半期連結財務諸表に与える影響額を合理的に見積もることは困難であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結 損益 計算書 計上額 (注) 3
	製錬	資源	電子部材	環境・リ サイクル	土木・建 築・プラ ントエン 지니어リ ング	計				
売上高										
外部顧客への売上高	22,056	4,502	1,618	1,349	389	29,916	783	30,700	—	30,700
セグメント間の内部 売上高又は振替高	180	1,124	0	—	32	1,337	1,374	2,712	△2,712	—
計	22,236	5,627	1,618	1,349	422	31,254	2,158	33,412	△2,712	30,700
セグメント利益	408	145	149	525	30	1,260	113	1,373	224	1,598

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、防音建材、運輸、環境分析等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額224百万円には、セグメント間取引消去292百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△67百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結 損益 計算書 計上額 (注) 3
	製錬	資源	電子部材	環境・リ サイクル	土木・建 築・プラ ントエン 지니어リ ング	計				
売上高										
外部顧客への売上高	17,429	2,468	1,302	1,331	168	22,700	724	23,425	—	23,425
セグメント間の内部 売上高又は振替高	62	1,105	0	—	27	1,195	1,159	2,355	△2,355	—
計	17,491	3,574	1,303	1,331	196	23,896	1,884	25,780	△2,355	23,425
セグメント利益又は 損失(△)	△3,788	△577	122	398	△119	△3,963	125	△3,838	△147	△3,985

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、防音建材、運輸、環境分析等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△147百万円には、セグメント間取引消去△94百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△53百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

「資源」セグメントにおいて、鉱山の生産計画の見直しにより、今後は投下資本に見合うだけの十分なキャッシュ・フローの回収が見込めないと判断し、資源事業(エンデバー鉱山)に係る資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間において325百万円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、従来「その他」に含まれていた「土木・建築・プラントエンジニアリング事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、当第1四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しており、前連結会計年度に開示した第1四半期連結累計期間に係る報告セグメントとの間に相違が見られます。

## 3. その他

## 連結売上高明細表

品名	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)		前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
亜鉛製品	9,815	32.0	7,924	33.8	34,115	29.0
鉛製品	5,854	19.1	5,415	23.1	24,077	20.5
電気銀	4,426	14.4	2,915	12.4	16,114	13.7
硫酸	436	1.4	405	1.7	1,595	1.3
鉱石販売等	4,502	14.7	2,468	10.5	20,544	17.5
電子部品	569	1.8	468	2.0	2,084	1.8
電子材料等	1,048	3.4	834	3.6	3,778	3.2
環境・リサイクル製品	1,348	4.4	1,329	5.7	4,698	4.0
防音建材	393	1.3	381	1.6	1,525	1.3
完成工事高	402	1.3	167	0.7	1,882	1.6
その他	1,901	6.2	1,114	4.9	7,135	6.1
合計	30,700	100.0	23,425	100.0	117,551	100.0